資料 7

藤枝委員からの提供資料（２）

〇ハッピーリタイアに向けた取り組み事例～企業から地域へ～

特例子会社に２０年近く勤務されていた知的障害のある方のハッピーリタイアに向け、本人、会社、センターで取り組んだ事例（X年１月～X＋１年３月）

（状況）

２０年近く清掃業務、軽作業業務を行ってきた知的障害のあるＡさんが、次の年度末（X＋１年３月）で定年退職を迎えることになりました。特例子会社Ｂ社では、定年退職者はこれまでおらず、Ａさんが初めての定年退職者となる予定でした。

２０年近く働いてこられたＡさんの定年退職後の生活(以下セカンドライフ）に向けた支援を行うにあたり、定年退職を予定した前の年からＡさん、Ｂ社の上司であるＣさん、障害者就労支援センター(以下センター）のＤ職員で話し合いを重ねて進めていきました。

（支援内容）

Ｘ年１月に３者で集まり、①定年退職を迎えることの説明、②定年退職後の生活についてセンターD職員と相談をすること、③これまでＡさんがやってきた仕事への評価や振り返りを定期的に上司Ｃさんと行うことを確認しました。

そこから１ヶ月に１回、ＡさんとセンターD職員は面談を行い、セカンドライフの事例や活用できる制度などの情報提供（就労継続支援Ａ型／Ｂ型やシルバー人材センター、ボランティアセンター、求人情報など）を行ったり、見学や説明会に参加をしながら、Ａさんの「こんな生活をしたい」といった希望を相談していきました。

Ａさんの希望は「ゆるやかに仕事を続けていきたい」であり、様々検討した結果、シルバー人材センターを利用することになりました。

利用するにあたって、シルバー人材センターの職員の方とＡさんの特性やこれまで経験したことのある業務内容などを個別に相談をし進めていきました。

実際に見学を行い、最終的にＡさんにあった活動を紹介してもらうことができました。

定年退職まであと１ヶ月程度のところで、上司のＣさんとこれまでの仕事の振り返りや労いをして頂き、定年退職後のプランも会社へ報告をしながら進んでいきました。

これまでとても仕事をがんばってこられていたＡさんであったので、当初上司のＣさんからは定年退職後の生活を心配するお話がありました。

今回、本人、会社ともとても良い形で、ご本人様もこれまでの実績の労いを受けながら、企業様としても安心して送り出せる機会となりました。

働く障がいのある方の高年齢化について、「雇用から福祉へ、企業から地域へ」の事例としてご報告いたします。

（人物や機関の特定につながらないよう趣旨に影響がでない範囲で内容のアレンジをしております）